入善町報

発行所 入善町役場
編集発行責任者 中田憲政
印刷所 田中印刷所

町財政の運営状況

財政課長 本田清治

市町村財政運営の基本原則は、その財政について健全な運営に努め、いやしくも国の財政若しくは他の公共団体の財政に累を及ぼすような施策を行ってはならず、又国は、地方財政の自主的な且つ、健全な運営を助長することに努め、その団体の自律性をそこない国の負担を転嫁するような施策を行ってはならない。と財政法に規定されて居ります。

合併以來町財政は、常規を逸脱した面もありましたが、どうにかして現在に至り、健全財政の常道にもどるのも程遠からずの感がして來たようです。

それで、本年度の財政運営がどのようにして行われ最終的にどうなるか、大よその財政収入見込額及び全需要見込額を大別してお知らせします。

昭和三十年度分

歳入見込額（千円）

町税	七四、四五五
地方交付税	一九、二〇〇
国庫支出金	九、一八三
県支出金	五、一七五
寄附金	一五、四三九
其他の収入	一〇、一〇二
町債	六、九〇〇
財産売払金	一三、四二九
合計	一五三、八八三

歳出見込額

人件費	三一、五五五
物件費	三三、〇五〇
其の他	一二、八五八
公共事業費	二四、五〇七
単独事業費	一八、三四九
公債費	三八、五五二
繰出金	三、〇〇〇
繰上充当金	一二、九二五
合計	一七四、七九六

歳入歳出差引不足額　二〇、九一三

この不足額は、三十一年度歳入から繰上充用されることが予想されます。

昭和三十一年度における一般会計の財政収入額の見積りは、現在の段階においては左に掲げる以外に過大見積りは危険でないかと思われます。大体本町の平年度（合併以後）財政収入額は、次の数字に落着きを見せて居り、一応確定財源として打ち出せるものと考えられます。

昭和三十一年度分

歳入見込額（千円）

町税	七四、五〇〇
地方交付税	一六、七〇〇
国庫支出金	八、〇六三
県支出金	五、六一八
寄附金	―
其の他の収入	五、六五〇
町債	一、〇〇〇
合計	一一一、五三一

尚、歳出については、予算編成前であるから何とも言えませんが、義務的経費は当初予算に優先的に計上すべきもので、まず負債の償還元利金約三千三百九十五万円と、最小限度の消費的経費約七千万円が見込まれますので、新年度予算は財政収入額とにらみ合せて考えますとき、多事多難であることが予想されます。

昭和30年度第七回追加更正予算

歳入　30.12.26議決

款	前回までの累計額	追加更正予算額	計	附記
1.町税	72,194,705	2,351,255	74,545,960	町民税の現年度・過年度の調定額
2.地方交付税	12,500,000	4,200,000	16,700,000	
6.国庫支出金	10,635,340	748,000	11,383,340	都市計画事業費追加分
11.町債	5,500,000	1,300,000	6,800,000	都市計畫事業費
歳入合計	166,196,446	8,599,255	174,795,701	

歳出

款	前回までの累計額	追加更正予算額	計	附記
2.役場費	26,329,556	298,300	26,627,856	職員期末手当(0.25) 及び退職手当の追加分
3.消防費	4,995,944	30,745	5,026,689	職員期末手当(0.25) 及び超過勤務手当
4.土木費	4,392,105	1,758,300	6,150,405	道路維持修繕費雑手当 8,000円 都市計画事業費 1,750,300円
5.教育費	35,021.606	51,363	35,072.969	職員期末手当 (0.25)
6.社会.労働施設費	11,270,764	30,086	11.300,853	保母等の期末手当 (0,25)
7.保健衛生費	1,115,279	156,025	1,271,304	委託治療費及び火夫宿舎改築工事費 60,000円等
8.産業経済費	25,119,742	65,750	25,185,492	扶養手当及び職員期末手当 (0.25)
9.財産費	1,574,300	156,000	1,730,300	総合事務所追加工事請負費
12.公債費	3,561,590	1,500,000	5,061,590	一時借入金利子
13.諸支出金	48,471,501	4,552,683	53,024,184	国保繰出金追加分 1,000,000円 負債整理繰出金追加 3,469,000円 諸費 83,683円
歳出合計	166,196,446	8,599,255	174,795,701	

自作農への福音

資金は融通法でできる

自作農を育てるために〃自作農維持創設資金融通法〃が制定され昭和三十年八月十五日に公布されている。これは、中小農家において農業経営上農地の確保維持等に要する資金を長期間安い利子で貸付する法律である。

これを利用しようとなさる方は、次の条件によって申請し、県知事が認めた上貸付けてもらえることになってる。

條件

1. 農業経営の安定を確保するため、農地の取得に要する資金（自作地の取得資金）
2. 小作地の取得に要する資金（小作地取得資金）
3. 共同相続した農地等を細分化から防止するのに必要な資金（相続資金）
4. 疾病負傷災害等により農地等を売り渡すことがあるのを防ぐに要する資金（維持資金）
5. 貸付条件
   年利　五分
   貸付金　二十万円以内
   期間　二十年以内　据置期間三ケ年以内（但し償還期間内に含む）
6. 資金借受希望農家は、申請書に農協及び農業改良普及員と協力の上、農業経営安定計画書をつくり、確実な基礎に基ずき実行可能な計画で将來の経営改善と、借入金の償還を計ってゆくことになっている。

尚、貸付を受ける手続等は、各地区の農業委員会で行います。

冬期間の交通事故防止に御協力を!!

新年早々近年まれに見る降雪により一時私達の足を奪われましたが、天候の回復と共に交通機関も復旧されて來ました。

しかし、まだ道巾もせまく、雪のため自動車がスリップする危険も多いから、次のことをお互によく守って冬期間の交通事故を防止するよう努力しましょう。

○運転手さんへのお願い

一、飲酒運転は絶対に止めましょう

一、二月は正月気分でとかく気がゆるみがちですそのため思わぬ交通事故を起すことがあります。又他の月にくらべて飲酒する機会が多いため、年間の酩酊運転による自動車事故の多くはこの期間に発生しております。自分のためにも人のためにも酒をのんで自動車などの運転をすることは、絶対にさけましょう。

二、自動車には、滑止めのチエーンを用いましょう。

冬期間は、路面が凍結や積雪のために滑りやすくなります。そのためブレーキの効果が著しく害されることになります。時速三十二キロで走っている自動車が、急ブレーキをかけると、乾いた路面で一三・一メートル、凍結した路面では、その四倍以上の五四・三メートル滑走しないと止らないので非常に危険です。自動車には、必ず滑り止めのチエーンを用いて、事故を防ぎましょう。

歩行者も車の止りにくいことを知っていて、自動車の直前直後を横断しないように注意しましょう。

○一般の方々へのお願い

一、道路上で遊ぶことは止めましょう。

道路で羽根つき、たこあげ、こま廻しなど子供の遊びが非常に多いようです。道路での遊びは一番危険で、交通の妨害となるばかりか、交通事故の原因になりますから、子供を路上で絶対に遊ばせないよう気をつけましょう。

二、なるべく道路に水をまかないよう

路面が凍結すると、自動車等が滑って危険ですから、水をまかないようにしましょう。特に早朝の場合注意して下さい。

三、除雪を励行しましょう

不時の災害に備えて、消防自動車等が通れるだけは必ず除雪するように心掛けましょう。

入善警察署交通係

盛んだつた成人式

出席率七二%

第八回入善町成人式は、一月十五日十時半から入善小学校講堂で（呉紡関係一三八名は同工場講堂で）三百名の若人たちを集め、多数の來賓の御参集を得て盛大に催された。

まず、米沢教育委員長の式辞にはじまり、記念品の贈呈、優良青年の表彰、來賓の激励の辞と、式次が進められ、最後に成人代表横田重信君の力強い答辞があった。

式後成人祭が催されたが意見発表、余興、映畫観賞と終日祝福しあい、意義ある一日を送った。

意見発表は各地区一名の代表によってなされたが、各れも真摯な充実したもので、この世代を健康で、明かるく、正しく生きようとする若人達の心構えがうかがわれて、頼もしいものであった。

優良成年表彰者

入善地区	米沢　二夫
〃	四十物淳子
上原〃	川田　達雄
〃	村田　朝子
青木〃	中林　弘
〃	野沢　絹子
飯野〃	伊野　勇吉
〃	一島ふじ子
小摺戸〃	松井　明
〃	馬田　瑞子
新屋〃	浦滝　保雄
〃	早川　容子
椚山〃	大田　好雄
〃	長島富美子
横山〃	野口　敏夫
〃	尾山　妙子

新たに選挙権を得た感想文を募集する

主催　財団法人公明選挙連盟
　　　都道府県選管委連合会
　　　自治庁

標題　新有権者としての選挙に対する自覚

字数　四〇〇字詰原稿五枚以内

応募資格　昭一一年一月一日から昭一一年一二月三一日までに出生の者

締切　昭三一年二月一五日

提出先　東京都千代田区霞ケ関一の二　自治庁選挙部

入選発表　昭三一年四月二五日公明選挙時報に発表するほか入選者に通知

賞金
一等　二万円　一篇
二等　一万円　二篇
三等　五千円　三篇

注意　住所、氏名（ふりかな）性別、生年月日及び職業（学生は学校名、学部学年）を原稿末尾に附記し封筒左下段に「感想文在中」と記載のこと。

入善町風土記

〔第十八回〕

古戦場入善　(4)

竹内慎一郎

崇神天皇（十代）十年（二、〇四三年前）大彦命が多数の兵士を引つれてこの地方を通過した。

大彦命は八代孝元天皇の第一皇子で、崇神天皇には伯父に当り、四道将軍の筆頭として北陸道をおさめることを命ぜられ、十月二十二日（今の十一月十六日）大和の国を出発した。

この頃日本の各地に先住民族（アイヌ等）が居た。北国に住むものを高志（コシ、東海道以東に住むものを蝦夷（カイ）といゝ、又近畿に土ぐも（穴居族）、西部にクマソ、隼人などの諸族が原始的な生活を営み百二十いくつかの国があった。

入善町の周辺にも先住民族の住居のあとが二ケ所発見せられているから、この附近にアイヌ族がいた事はまちがいない。即ち、舟見街道小杉の「ハバ」につき当った上の田の中に一ケ所墓の木のハバの曲り道を登りつめた所から北方約五百米、愛本新のハバ添いに一ケ所あり、石器、土器が沢山出土している。その他山崎村栃木山、生地駅―三日市駅中間栃沢部落、及び前沢、田家、天神山、嘉例沢等からも沢山掘り出されている（越中史前文化）。

尚、南保の「越」はアイヌの高志であろうという（郡史稿）。本町吉原に「土ぐもの横穴」というのがあるが、本物かどうかうたがわしい（上青中学浦田先生編「入善町の伝説」）

大彦命は、之等の先住民族ににらみをきかせつゝ通ったので、途中婦負郡鵜坂村に駐まって鵜坂神社を創建し、鵜坂姉姫、妻姫等四神を祀った（越中宝鑑）今、大彦命を加えて五神を祀っている（婦負郡史）

尚、北国には大彦命を祖とする名族が多い（越中郷土史）

大彦命の子孫に布勢氏という氏族があり、黒部市の布施、大布施地方、氷見市の布勢は布勢氏一族の来住し繁栄した所であるという（郡史稿、九里氏）

大彦命は奥羽地方まで進み、会津で東海道巡察の将軍武渟川別（タケヌナカワワケ）命―大彦命の子―と会い、翌十一年四月二十八日（今の五月二十八日）大和に帰り、天皇に状況を報告した（日本書紀）

景行天皇（十二代）二十五年七月三日（一、八六一年前今の八月八日）武内宿禰（タケノウチノスクネ）が、北陸及び東方諸国の地形並びに百姓の消息を巡察し、二十七年二月十二日（今の三月二十九日）帰朝して、その状況を報告した。

武内宿禰は、大彦命の弟の孫で、十三代成務天皇の時に日本最初の大臣となり、仁徳天皇の世に死んだが、その在官実に二四四年と伝えられている。武内宿禰の子孫と称するものも北国に多く、その孫、大河首足尼（オウカワンドノスクネ）が、初代の射水国造（クニノミヤツコ＝国守）となって、越中に來住し、その子孫が永く射水臣（イミズオミ）と称して郡政に参与したので本県とは特に縁が深い。

処女地開拓（4）

「北日本録音」の誕生

すべての新規事業は「頭」と「腹」即ち計画と断行にある。北日本録音会社は、その典型的な例として誕生した。

声の記念撮影　肉声の遺言状

昨年十月から富山駅前、須田ビル三階に、世にも珍らしい会社が生れた。社名を北日本録音会社と云う。レコードを造る会社だと云えばそれまでだが、姿を残す写真のように、手軽に声を残す――例えば、遺言とか、自慢のノドとか――たのレコードを造る仕事をしているのである。

この会社の社長は、ついさきほどまで入善町議会議長をつとめていた吉沢久雄氏である。

本社は富山にあるが、入善町寺田町には入善町営業所を設けている。又呉羽町八尾町をはじめ、呉東の主な町村に取次店を置き、外務員を配置している。発足以来まだ三四ケ月ですでに呉東地区をかためたと云う発展振り。近く全県下は勿論、新潟、石川、福井にも進出しようと、機を ねらっている。

この会社のねらい

レコード会社は、東京や大阪にいくつかあるが、大衆向のレコードを製造販売するだけで、個人向は扱わないのに反し、この社は、個人を対象にしている点では他に類が無さそうであって、全国初のものである。

◇特徴

1. 気軽に吹き込める。
2. どんな場所でも録音出来る。
3. 記念の声を永久に保存出来る。
4. やすい経費で
5. その場で音盤が出来上る。
6. レコードは、アセテート板を用いるから減多にわれないから
7. 声の郵便に便利である。
8. 硬盤（普通のレコード）よりも磨滅が早いから
9. 特殊な針を使わねばならぬ。
10. 注文によっては、硬盤の吹込みにも応じる。

この場合の製盤は、東京のレコード会社に依頼するので、一～二週間の日数を要し、枚数も五十枚以上でないと いけない（一枚六百円程度）

以上の特徴で大体盡きているようであるが、従来自分の声を残したいと思っても東京あたりへ出向き、その上数千金いやそれ以上の経費がかかるのでとても一般には手が出せなかった。

ところが、この会社はアセテート板を使用して、手軽にどこででも速座に録音してくれ、しかも十インチ板（普通板）両面（六分間）六百五十円、八インチ板両面（四分間）五百五十円でやってくれる。

同級会などで、滅多に会う機会のない友達の楽しい話し合いを録音し、或は、欠席会員に之を送り届けるとか、臨終の言葉、遺言等を録音するにはもってこいのものである。

将来の見透し

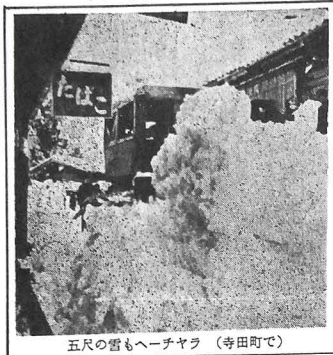
まだこんな便利な会社が あることを一般は知らないから、現在のところは充分純益を挙げるまでには行っていないようであるが、未だ宣伝時期においてすらこんな調子であるから、今後音楽会や辯論大会等からの注文が殺到することが予想されるのと、日本に只一つというところで、どこまで発展するかが見物であると思う。

猶慨した社長の話

どうしてこんなことを思いついたかを吉沢社長に聴いてみると

「私は、支那に居た時、とある大人から晩餐の招きを受けた。その席上いろんな話のあとで、亡くなったおじいさんを紹介しようと云って、祖父のレコードをかけてくれたその時、さすがは敬老の国だと感心すると同時にこれはおもしろい、日本に帰ったらこの種の録音をやろうと思った。だからこんな会社を作った吉沢氏に敬意を表すると共に入善町に生れた会社だと云うことで、町の誇りと言わねばなるまい。

中田



五尺の雪もヘーチヤラ（寺田町で）

こんなブルトーザーが町にもほしい

年頭早々の大雪に地鉄からブルトーザーが出動して小杉、入善、三日市へと除雪してくれた。

ここにムダあり（2）　結婚について（一）

独身もまたムダか

身一つでいたら楽だ、経済だとて、独身を主張している青年たちが、年頃年ごろにわかの雪で、通勤の時間と労力との経済を考えて今まで家事一切は、母親にまかせきりで、その苦労を知らない人たちが、トタンにやれ煮炊き、やれ食事のあとしまつ、やれ汚れ物の洗濯等々、役所の仕事も手につかぬ有様。それよりも困ったことは四五日で正月のポケツトマネーがカイになったことである。

これによって得た体験は

1. 家庭は、分業化された合理社会である。
2. 消えた金で、その間一家を養えるのであった。
3. 独身は不経済である。

結局独身は青春のムダであり、生活のムダであって、新家庭を持つ必要があることに気ついた。

そうそう結婚についての、ムダ話を拾うのだった。

嫁は品物から人間に昇格したのに！

〝よいカカとらんせ来代道具じゃ〟歌の文句通り、古来嫁は、一家構成の貴重な道具とされていた。そこで、家族制度華やかな時代には、婚姻当事者よりも家長の意志が重んぜられた結婚形式がとられて来たのである。

然るに近代になって、人権が次第に尊重されて来、家族制度が廃止された。そして新憲法では、次のように完全に嫁は道具でないことになった。

憲法第二十四条・婚姻は両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力によりて維持されなければならない。（二項略）

憲法の制定を待つまでもなく、アダム対イブ、イザナギ対イザナミの結婚神話のように、婚姻は、ハダカのまま、しかも両性の意志によってなされるのが原則であり、自然である。

世によく行われている仲人口だけの「見ずてん結婚」や、親同志できめた「家柄結婚」は、結婚の本旨にそわないわけである。恋愛結婚の良し悪しは別として、とかく仲人結婚であろうと相当の交際期間をおき、お互の合意の上で結ばるべきだ。一夜身を提して行う試験結婚の如きは、言語道断である。

嫁入準備・仕度

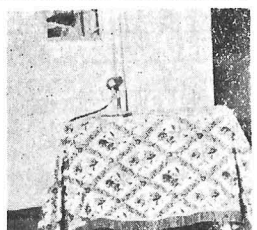
嫁入準備の第一義は、嫁となる資質を早急に身につけることであろう。学校教育て一通り出来ているはずだが、その欠けている部分について、最後の仕上げをする、洋裁、生け花、お茶等の勉強をするのもその一つである。

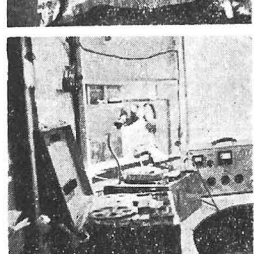
尚、敬遠され等閑視されがちな整理だんす、茶だんす、長持、ミシン、鏡台、茶道具、煙草盆、人形、下駄箱、裁板、張板、衣桁、バケツ、ほうき、ちりとりまだこの上に洋服ダンス、自転車、お花の道具、婚姻の精神から遙かに遠ざかり、アダム、イブの神様も新憲法も泣くだろう。

一体嫁入先にたんす長持の無い家は少いだろうし、まさかバケツや箒などの無い家ってあろうか。ムダもここまで来れば、アア何をかいわんやだ。

嫁入仕度は三分の一、五分の一に減じても充分なはずである。十五万、二十万とかける金があったら預金帳を持たせたらよい。（未完）

記者クラブ　N生





上、吹込室　下、製板室

とばく捕物帳

金儲けにも表街道、裏街道といろいろあるが『悪銭身に付かず』ということは古今東西変らないであろう

北陸特有の冬ごもりの季節に、三人寄れば何とやらで、賭博の悪習は今もなお跡をたたないようだ。

最近入善警察署で賭銭狩を行ったが、現行犯逮捕者だけでも六名、書類送検者二十余名、罰金刑四という大賭博を挙げたので一躍はこうだ。

かねて内偵中であった博徒の動静が、網の目のように張られた情報線から逐一手に取るように入る。捜査員は全員捕束の態制で、大雨をつき、点綴するわらにうを盾として夕闇せまる賭場を包囲した。間違いなしと見てとった係員は、ザアツ!!と現場へなだれ込む。

『その賭ちよっと待った!!』

二人の見張に安心しきった博徒や客人が

『手入れだ!!』

と感付くには少し間があった。

闘牛のごとく、戸、障子戸を突き破って逃げようとした。中には用水に首だけ出してかくれていたものもあったが、無駄であった。

捜査員の目はこれを見のがす筈はない。十数名は一網打盡、さっきの元気はどこへやら、鉄格子の中で悔悟の泪を流す彼等であった。

皆さん、一時の楽しみのために家庭を忘れ、妻子を捨て、自らも誤ち行くことは実に馬鹿らしいことではないでしょうか。

雪魔がやってくると、正月気分も手伝い悪習の花札マージャン等の賭事に凝りその結果持金をなくし、つい家庭の財産までも失い、妻や子供を路頭に迷わせ人間を堕落させ賭博の入善警察署は、断然厳重なる労意慾を抑め、善良な風俗をみだした社会の仁見ても大きな害毒です。

今冬こそは防犯組合や青年団、婦人会が中心となって

悪習の賭博！

家庭を滅す賭博！

妻子を路頭に迷わす賭博！

人間を堕落させる賭博！

絶対に賭博はやめましょう。

この様な賭博は健全な勤労者の敵です。

たばこは必ずこの町で

たばこを買ったら、たばこ消費税が役場にはいること、御存じですか。

たばこ売上げの百十五分の五は市町村役場に（百十五分の五は府県に）消費税としてはいるのですが、役場では今年度三六〇万円はいるのかと見込んでいるのです。もし、よその町でたばこを買ったら、それだけこの町の収入が少くなるのです。たばこは必ずこの町で買いましょう。

ピース（四五円）
税　三・九一円
新生（四〇円）
税　三・四九円
光（三〇円）
税　二・六一円
きざら（六〇円）
税　五・二二円

助役、収入役、課長の任命

欠員中であった助役一名収入役一名の補充にあたり助役に総務課長竹内栄治氏を、収入役に財政課長杉原礼次郎氏を任命することについて、一月十三日及び一月十七日の町議会において議会の承認を求めたところ各地区の意見もだいぶ慎重審議の結果満場一致をもって承認することに決した。

尚、欠員中の保健衛生課長及び厚生課長も夫々任命された。

任命

助役（第二）　竹内栄治
収入役　杉原礼次郎
（一月十八日付）

総務課長事務取扱　竹内栄治
財政課長　本田清治
（元財政係長）
保健衛生課長　金沢兼松
（元収入役代理）
厚生課長　長島啓太郎
（元厚生係長）
収入役代理　西尾三郎
（元保健衛生係長）
（一月二十日付）

尚、第一助役は清田清一氏である。

竹内助役

杉原収入役

投書函

お祭りを一しよにするよう願いたい

明けましてお目でとうございます。

毎年のお祭のことでございますが、今年こそは入善町一しよにお祭りをするよう日をきめて下さい。婦人たちは、会のあるたびに、お祭りが一しよにならたと話して居ります。今年こそ町長様の御努力をたのみます。

下山婦人部一同

入善図書館　新刊紹介

書名	著者名
何を読むべきか	毎日新聞随筆ひがん花	朝日新聞社
天声人語	中村武志
推理パズル	藤村幸三郎
人間の顔	山崎清
伝記北太郎御三洗辰雄	
世界の裏街道を行く	大宅壮一
二つの大戦	中屋健一
財人秘話	有竹修二
天皇	栗原健
昭和史	遠山茂樹
めざめる村々	団野信夫
国民主権	河村又介
世界女性史	玉城肇
巨富への道	大塚久雄
人間この複雑なもの	竹岡友留